

E—36 結納に関する一考察
—家族関係の近代化—

夙川学院短大 ○実野 利久
和田 美幸

1. 結納の慣行は、古くから存在し、現在にもおよんでいる。しかしながら、結納に関する法的基礎は、存在しない。結納に関する諸問題の解決は、慣行にゆだねられている。ここに、社会的現実としての結納の慣行の実態を分析し、結納の本質論に関する諸見解ならびに結納をめぐる慣行上の諸問題を紹介し、最後に家族関係の近代化を指向して、多少なりとも批判的な考察を試みた。

2. 全国26県にわたって実施された高梨公之教授の調査資料を出発点として、とくに近畿地域を中心に簡単な調査をおこなった。また、あわせて結納に関する意識について、主として未婚の女性を対象に、まったく予備調査の域を脱しない程度のものであったが、これを実施した。

3. 結納の慣行は、婚姻の近代化、家族関係の近代化と相容れない。後進地域における前近代的家族関係において、結納の有する意義は大きく、先進地域における近代的家族関係において、結納の有する意義は大きくない。結納に関する意識の調査において、上記の結論が導き出された。結納の慣行が家族関係の近代化の展開につれて、多少の批判を招くことは必至であり、結納の慣行は家族関係の近代化の過程において、消滅する運命にあるともいえよう。